



子ども達の水辺体験、尼崎藻川に浮かぶ自然と文化の森協会の手づくり筏
(本文中に関連記事があります)

目次 contents

・新自治体誕生ラッシュ	2
・タクシー・チケットで京都・四条の交通環境改善を	3
・歴史・自然を活かした「神紙の森づくり」	4
・市民協働型活動から連携の仕組みを模索しつづける	6
・2つの温泉のその後	8
・うまいもの通信	9
・大阪の歴史を重ねる上町台地	10
・三輪泰司会長都市計画学会功績賞受賞祝賀会への ご参加にお礼申し上げます	10
・メディア・ウォッチ	11
・まちかど	12

新自治体誕生ラッシュ

[大阪事務所／小阪 昌裕・田口 智弘]



平成合併自治体のスタート

今年のマスコミをにぎわせたキーワードの一つに「合併」があげられることでしょう。その中でも市町村合併の場合は、合併特例法の期限が近づくに伴い、全国で新自治体の誕生ラッシュが始まっています。この10月1日からはニューフェイスがさらに増えました。

合併協議段階での協議事項の中の一つに「市町村建設計画」があります。これは、合併後の市町村のマスタープランともなるもので、改めて策定される新自治体の総合計画の基礎ともなる計画です。アルパックは、この計画の策定支援に関して、現合併特例法適合の全国第1号の篠山市からはじまり、ここ1～2年で近畿4県、石川・岐阜県の20程度の協議会、構成自治体としては約80市町村にかかわってきました（施行済5、議決済5）。

ドラマチックな合併

昭和の大合併時に成就せず平成までもちこしたところや、法定の協議会を立ち上げて議決まで約2年かかり、その間構成市町村がめまぐるしく変わったところ、住民投票で片方の自治体の反対が多い結果となり、自治会等の支援により特例法期限の延長により建設計画を修正して合併にこぎ着けたところなど、さまざまな市町村合併のドラマを体験しました。

そんな中、この10月より七尾市、葛城市、下呂市、みなべ町の4市町がスタート。今回は葛城市とみなべ町をご紹介します。

新大和文化を発信し続けるまち「葛城市」

奈良県の西の端、二上山の東山麓にある雄大で美しい景観の旧新庄町と旧當麻町の2町合併でできた人口約35,000人の市です（合併特例期限内に合併した場合のみ、平成12年の国勢調査で3万人以上であれば市に昇格可。通常は5万人）。新市の玄関は近鉄南大阪線尺土駅（特急停車）、南阪奈道路葛城ICで、交通の利便性

も良いまちです。さらに東西に日本のシルクロードで難波と奈良の宮を結ぶ官道1号線の竹内街道がとおり、白鳳文化の粹である當麻寺等のある歴史文化の薫り豊かな田園都市です。

まちを巡っての第1印象は、明るさ、清涼感と静けさのあるまちでした。福祉施設や文化施設、必要な公共施設が整備され、ゆったりと時間が流れているようで、住み良さが実感できるまちです。そのため、当初の新市のイメージ提案は“人と自然と歴史を育む 葛城田園文化都市”でした。

平成合併の奈良県第1号の葛城市、二上山のように両町の良さを尊重し伸ばしながら一つのまちとして、新大和文化を発信し続ける自治体として伸びることを期待しています。

海・山・川の恵みの中で人が輝く快適なコンパクトタウン「みなべ町」

みなべ町は、和歌山県の海岸線のほぼ中央に位置し、もともと明治の町村制が施行される前までは「南部郷」「南部組」などとして一体的な地域運営がなされていた南部町と南部川村が合併して誕生した町です。旧町村の時代から梅の産地として知られていましたが、合併によってブランド・生産量と名実共に日本一のまちとなりました。また、備長炭の生産も日本一であり、世界でも他に類がない硬質炭として知られています。さらに、古くから良質の漁港として知られた南部港では、年間を通じて巻網、刺網などの漁業が行われ、新鮮な魚が水揚げされています。このようにみなべ町は、南部川水系と南部湾の豊かな自然の恵みを一身にうけ、全国的にみても活力のある特徴的な町としてスタートしました。今後も、この恵まれた環境を生かして、自然と人が共生し、輝き続けるまちとなることが期待されます。

タクシー・チケットで京都・四条の交通環境改善を

【京都事務所／高野 隆嗣】



都市再生モデル調査を踏まえて

京都のメインストリートである四条通における「風格と華やぎのメインストリート」づくりの続報です。

平成15年度に四条繁栄会商店街振興組合(以下、繁栄会)で取り組まれた「都市再生モデル調査」については、弊社ニュースレター(vol.125)でもご紹介しました。同調査でも明らかにされた通り、四条通りの交通渋滞の大きな原因の一つが「客待ちタクシー」です。今回の事業は、これら「タクシー問題」を「排除の論理」ではなく、タクシー業界と地元商店街の「協働の論理」で解決する道を模索するものです。

デビットカードで5千円以上の買物客に何度でも

読者の中には京都新聞夕刊テレビ欄7段抜きの「告知」をご覧になられた方や、既に「夏の部」でチケットを獲得された方もおられるかもしれません。システムは簡単です。繁栄会加盟店のうち、KICS(京都情報カードシステム)参加の店舗において、5千円以上をクレジットカードやデビットカード(一部店舗はデビットカードのみ利用可能)で買物されると、もれなく「タクシー初乗り無料チケット」が進呈されます。

KICSは、加盟店ならあらゆる銀行のキャッシュカードやクレジットカードで決済が可能となるシステムであり、京都市内14百店舗の加盟する全国最大級の商店街カード事業です。今回の事業は、この「情報インフラ」を活用することで初めて可能となる実験なのですが、KICSの詳しいご紹介は「またの機会」とします。

タクシー業界と四条繁栄会の協働の礎に!

今回の事業に先立ち、四条通りの交通環境をより良くすることを旨とした「申合せ」が、近畿運輸局、京都市、並びに京都府警察五条警察署立会いのもと、繁栄会と京都タクシー業務センターで6月に調印されました。申合せは、繁

栄会はタクシー利用の促進を心がけ、タクシー会社はタクシーベイ以外で客待ちをしないことを明記しています。

「渋滞の原因」として白い眼で見られかねないタクシーですが、「締め出すのは商売人のやり方ではない」と繁栄会のみなさんは言います。むしろ買物を楽しむ「お客様の大切な足として積極活用しよう」「その代わりタクシーも儀儀良く」してもらい、「お客さんをどんどん運んで来て欲しい」という考え方です。

息の長い活動で「風格と華やぎのまち」を実現

既に6月から1ヶ月あまり「夏の部」として5千枚のチケットが配布されました。結果、効果があったかというところ…。弊社もお手伝いして、事業実施前後で数回の実測調査をしました。当初から予想されたことですが、残念ながらタクシーのマナー向上に殆ど成果は見られません。即効性はありませんが、この類の取組はいわば「漢方薬」。じわじわと効用も現れています。

11月1日から「秋の部」がスタートです。チケットも8千枚に大幅増。京都都心を優雅に流す自転車タクシー「VERO TAXI」の利用も可能ですし、今回から四条河原町阪急や藤井大丸も参画しています。さらに来年度以降の京都市バスや京阪電気鉄道のIC決済サービスPiTaPaとの連携も構想されつつあります。

京都で秋の深まりを感じるとともに、四条でお買物いただき、みなさんもタクシーでちょっとリッチな気分を味わってください。

四條繁栄会お客様サービスチケット 000000 <small>※京都市内の全タクシーがご利用出来ます。 運転千円へ このチケットは車交通の乗換です。</small>		
タクシー額 650円 <small>超過額は現金でお支払いください。</small>	有効期限 2005年2月28日まで	車両ナンバー _____
お渡し日 _____年 月 日	運転手名 _____	_____
ご利用日 _____年 月 日	ご利用区間 _____	～お客様へ～ 四條通のより良い交通環境実現のため、アンケートにご協力をお願いします。 左及び裏面の去過内の質問にお答え下さい。
●お住まいはどちらですか。 1.京都市内 2.京都府以外の京都府内 3.京都府外 ●どのような状況でこのチケットをご利用されましたか。 1.買物帰り 2.食事帰り 3.観光途中、帰り 4.仕事帰り 5.その他		

歴史・自然を活かした「神紙の森づくり」 『千年の森冒険隊2004』 福井県今立町の取組

〔京都事務所／石本 幸良〕

越前和紙の里「今立町」

越前和紙の里で全国に知られる今立町は福井県のほぼ中央に位置し、私の出身地「武生市」と隣接しています。その中の大滝地区は1500年の伝統と技を受け継ぐ日本一の紙漉の里で、世界に冠たる「手技の里」です。地区の紙祖神（しそじん）岡太（おかもと）神社・大瀧神社（重文）を中心に数多くの歴史遺産が存する「歴史文化の里」であり、その神体山の権現山は天然記念物のブナ原生林が広がり、緑深い自然の森と里人の生活が融和する「森と人との共生の里」です。

今立町ではこれまで和紙の歴史をはじめ、職人技の見学、紙漉体験などの多くの体験施設および和紙のある風景を楽しめる「和紙の里通り」などの整備を進めています。また、大滝地区では地区の中央を流れる神宮川の砂防工事に伴い、緑のダムづくりを進める自然林の保全と、暗渠化を契機とした大門通の歴史的な町並みの保全・創造、さらには地区全体としてのものづくりの里「大滝浪漫の庄」づくりを目指しています。

平成16年度全国都市再生モデル調査の選定

今春、まちづくりのアドバイスを求められ、帰省と併せてまちを訪問しましたが、折しも平成16年度の全国都市再生モデル調査の募集開始時期にあたり、内容的にも、地元のみまちづくりの熟度からも全国のモデル地区としての要件を揃えており、早速応募することで提案書の作成を始めました。テーマは住んで良し、働いて良し、訪れて良しの「神と紙の郷づくり」を目指し、「住みごこちのよい、ものづくりが元気な『神と紙の郷づくり』」として、福井県和紙工業協同組合、大滝の未来を考える会、今立町の連名で応募しました。結果、6月末に全国の162件の中に選定され、研究の準備を開始していました。

7月の福井集中豪雨による被災

しかし、7月18日の午前に襲った集中豪雨の結果、神宮川が氾濫し、地区内の多くの家屋で床上浸水の被害を受け、手漉き和紙工場もほとんどが生産できない大規模な被害を受けました。当面は災害復旧活動が優先し、国からも研究延期の打診も出されましたが、多くのボランティアの支援の結果、復旧も早くに進み、また、モデル地区に選定されたこのチャンスを活かして具体的なものづくりの里の実現に対する地区の人の思いが結集し、8月からは具体的な調査研究についての検討を開始しました。

神と紙の郷づくりの会の設置

調査研究を進めるにあたり、「神と紙の郷づくりの会」を設置、会の中に、「神と紙の郷シンボルロードづくり部会」「ふれあい交流の場づくり部会」「神紙の森づくり部会」「元気なものづくり部会」の4つの部会を設置し、活動を開始しています。

千年の森冒険隊

ちょうど各部会の活動の準備を進めていたところ、2002年度から町の「ハツ杉千年の森づくり実行委員会」が開催している「千年の森冒険隊」の取組に、「神紙の森づくり部会」が連携して取り組むこととなりました。この企画は「都市と農村の人と森との新たな交流」を目指し、東京都港区のKissポート財団（(財)港区スポーツふれあい文化健康財団）の協力を得て、港区の子どもたちと今立の子どもたちの交流を目的にスタートしました。今年度は、福井豪雨の災害で、里山のいたるところで山肌が現れたこともあり、里山の保全を進めるため、大滝奥の院のブナ林でブナの苗木を地元の方と一緒に植える企画を追加しました。

冒険隊は9月18日（土）朝に東京を出発、当日は菜の花の種まき、稲刈りを体験しました。19日は朝から地元のメンバー約30人と、東京の子ども、おかあさん15人と地元の子もた



大滝神社の学習

ち約15名の総勢60名ほどが大滝神社に集合しました。宮司から神社の由来を聞いた後、奥の院に向けて山登りを開始。ゆっくりと約1時間ほどで県の天然記念物の「大杉」に到着。昼食後に樹齢800年を越える大杉の前で、地元の方のフルートとハーモニカの演奏に聴き入りました。その後、県の天然記念物の「ゼンマイ桜」の周辺で山肌の現れた斜面地でブナの苗木を植えました。急傾斜で最初は子どもたちもかなりこわがっていましたが(私も最初はへえーと思うほどの傾斜でした)、植え始めると、そこらじゅうから斜面を駆け回る子どもたちの歓声が山に響き渡りました。約1時間ほどで約500本ほどの苗木を植えました。添え木に子どもたちの名前を書き込み、この内何本が大木になるか、いつの日かもう一度訪れて汗にまみれた時を思い出せたらと感じました。

下山後に墨流しの体験をした後、夕方からは酒蔵に集まって歓迎会を行いました。少しハー



ブナの苗木の植樹

ドなスケジュールだったかとは思いますが、都会の子どもたちにとっては貴重な体験と交流ができたと思います。このイベントは今後も継続される予定です。

モデル調査研究

今立町での都市再生モデル調査はまだスタートしたばかりです。これから「ものづくりの里」からの元気な情報発信に向けて、部会ごとに具体的な取組を展開していきます。来年の2月には伝統産業での里づくりの活性化を進める全国の町や村との経験交流「神と紙の郷フォーラム」を開催する予定です。

大滝地区のみなさんとはまだ半年あまりのおつきあいですが、毎週の打ち合わせには大勢の方が出席され、また、イベントの時には地区上げての取組が行われ、本当に元々な里の印象です。手漉き和紙づくりに携わる方も高齢者の方が多いようですが、非常に元気で高収入と聞いています。全国から若い方も修行にこられ、手漉き和紙の工場の中で、一緒に働く姿を見ると、大滝地区は本当に住んでよし、働いてよし、訪れてよしの里を実現しており、今後とも交流の中から新たな地区の活力が生まれていくものと思います。

これから全国のものづくりの里のモデルとなるような調査研究と取組を続けていきますが、調査内容やフォーラムについてはこれからもニュースレターやホームページでご案内させて頂きます。



酒蔵での歓迎交流会

市民協働型活動から連携の仕組みを模索しつづける

〔大阪事務所／馬場 正哲〕

「自然と文化の森づくり」の取り組み

尼崎市の北東部の猪名川と藻川に囲まれた島ノ内とその周辺に残された河畔林や農地を地域に活かすため、市は、文化振興ビジョンで「自然と文化の森」構想を打ち出し、市制80周年振興事業として市民参画により、環境改善の事業に取り組むなかで、平成13年度に「自然と文化の森構想」を策定しました。(Vol.105で紹介)

その後、事業に参加していた市民が独自に「自然と文化の森協会」を設立し、地域の自然と農地と歴史に着目し、構想実現に向けた活動に取り組んでいます。(Vol.115で紹介)とりわけ、農業分野では地元で秀吉の時代から伝わる田能の里芋保存振興に着目し、公募で集まった会員と里芋栽培に取り組んでいます。



みんなで作る田能の里芋畑

持続可能なまちづくりシステムへの模索

構想実現に市民が広く協働で取り組む、持続可能なシステムとして、「自然と文化の森構想」では、「プラットフォーム」という場の立ち上げが提案されています。当初は、市の都市政策課が主催し、自然と文化の森協会はじめ、地域の地縁組織である社会福祉協議会や地域で活動する団体に呼びかけ、グループの紹介や交流、一緒にやれることなどを考えてみるフォーラム形式の行事として立ち上げました。

第1回プラットフォームでは、地域の活動団体に集まっていただき、市より「自然と文化の森構想」を説明。また、参加地域活動団体の交流の場として、各団体の活動紹介、勧誘タイムを持ちました。この結果、今後も交流の場を共有することが確認されましたが、主体的な動き

の盛り上がりは出来ませんでした。

第2回プラットフォームは、「プラットフォーム」の理解を深めるため、理念を牽引する共通の行動実践の中で具体化していくことが重要と考え、森協会を中心に「猪名川冒険トレール」づくりの提案と猪名川河川事務所の取り組み紹介を行いました。しかし、プラットフォームの方法提案と、地域での共有を求めるとどまりました。

プラットフォームの自立に向け

第3回では、森協会の活動が地域に認知されてきていることを踏まえて、「自然と文化の森構想」を共有するネットワーク構築やプラットフォームの実体化を進めることを目標としました。

本事業のアドバイザーで各地でラウンドテーブルなどを実践指導されている近畿大学の久隆浩先生より、「参加者の主体性を導く必要があり、行政が思惑を持って望むべきではない、先ず任せてみる」「プラットフォームと活動とは切り離す」「事務局は場所設定までで、毎月1回、固定した場所で、気軽に継続して行うことがよい」などのご指摘を受け、百聞は一見に如かず、八尾市と交野市のプラットフォームを参考に、取り組むこととなりました。

このため、より広く地域のテーマ型団体への働きかけを進めるとともに、社会福祉協議会など地縁団体の理解と協力を求めました。この「営業」活動は、新たな関係構築や活動認知など運動の広がりづくりの基礎となる効果を築いたと考えられます。

平成16年2月7日(土)、「一緒に自然と文化の森づくりの提案をしてみましよう！」をテーマに実行し、団体参加型から、個人参加とコミュニケーションの方法をワークショップ手法によって体験することが出来たと考えられます。

自立型プラットフォームの始動

いよいよ、平成16年3月20日、テーマなしの自由な集まりとして、第4回プラットフォームが開催されました。当日は、本事業のアドバイザーである神戸大学の山崎寿一先生のご紹介

で日本建築学会農村計画システム小委員会の先生方が園田地区における「自然と文化の森構想」の取り組みを視察され、プラットフォームに飛び入りで参加されるハプニングもありましたが、参加各人の情報交換の場が起動し、定期的に開催することが確認されました。

プラットフォームから協働連携の芽生え

その後、プラットフォームは、4月、5月と、毎月1回、園田地区会館で定期開催が定着しました。参加グループの構成が安定しだした段階で、「園田の猪名川、藻川で子ども達に水辺で親しむことを企画したい」という願いと、「猪名川・藻川の清流を取り戻す運動に取り組みたい」という提起が契機となり、一緒になって「猪名川・藻川清流復元水辺フォーラム・水辺まつり実行委員会」を設立し、フォーラムの企画・準備に取りかかることとなりました。

フォーラム実行委員会の始動

実行委員会の構成は、自然と文化の森協会、尼崎・夢まち・委員会、NPO法人近畿水の塾、尼崎市子ども会連絡協議会、尼崎市PTA連合会、国際環境専門学校有志ほかに広がりました。

平成16年10月3日(日)、藻川の河川敷を会場に、午前9時より、第1部の「猪名川・藻川清流復元・水辺フォーラム」が開催されました。阪南大学の澤井健二先生の「活かそう水辺、つなごう流れ」の講演に引き続き、関西学院大学の片寄俊秀先生をコーディネーターに、リレートーク&フロアーディスカッション「川でこんな活動してまんねん」を行い、国土交通省近畿地方整備局猪名川河川事務所の大槻佐伯調査課長より「猪名川と藻川の取り組みについて」報

告の後、猪名川・藻川の清流復元に向けた提言をまとめ、発表しました。

第2部は、午後より「水辺まつり」と題して、水辺音楽会、水辺体験会を行い、自然と文化の森協会の筏、尼崎・夢まち・委員会のカヌー、NPO法人近畿水の塾・摂南大学のEボート、NPO法人カムナプロジェクトの葦舟を子ども達に体験していただきました。河川敷でのイベントができたことは、公民協働の大きな成果ともなりました。

協働型ネットワークシステムへの模索

「自然と文化の森構想」は、地域の資源を活かして、「一緒に」「暮らしの中で」「魅力を磨こう」をキャッチフレーズに、8つの「夢」と52の取り組みアイデア集が示されているだけです。この構想実現は目標を共有した多様な参加と協働と実行がなければ全く絵に描いた餅です。目標年の市制100周年に何が成果として伝えられるか。

漸く、活動の多様な主体の形成と参加、情報の共有の場ができつつある段階です。これから、この多様な主体の積極的意思の盛り上がり活動の継続、連携の広がりに向けた、仕組みの工夫が問われます。

「プラットフォームにはフォーマルやインフォーマルなど様々な場面や方法が考えられる」との山崎先生指摘のとおり、少なくとも市の内外に配置され、庁内プラットフォームも機能させなければなりません。

多様なセクターの連携と地域の意思形成に及ぶ、情報・学習・行動の共有の仕組みづくりが、今後も模索され続けます。



藻川河川敷でのフォーラム



子ども達はカヌーや筏、葦舟、Eボートで水辺との親しみを体感

2つの温泉のその後

〔大阪事務所／鮎子田 稔理〕

兵庫県出石郡但東町「シルク温泉」、三重県阿山郡大山田村「さるびの」について本誌でもたびたびご紹介してきましたが、「但東町のシルク温泉」「大山田村のさるびの」としてご紹介するのはこれが最後となりそうです。市町村合併の嵐はこの2つの町と村においても例外ではなく、但東町は平成17年4月に「豊岡市」となり、大山田村はこれが発行される平成16年11月1日から「伊賀市」となります。

但東町シルク温泉

但東町を初めて訪れたのは、平成5年春でした。当時は福知山からのトンネルもまだ開通しておらず、つづら折りの峠を越えて通いました。本誌68号でも記述していますが、「秘境サミット」に呼ばれる程の静かな町でした。平成6年にシルク温泉がオープンし、年間30万人の人がこの小さな町を訪れ、利用客の増加に押されるように、その後宿泊施設やまびこ別館、飲食と物販のふれあい館、身障者用浴室、エステルームといったように次々と増築を行ってきました。その間に福知山から「登尾トンネル」、豊岡へ続く「いずたんトンネル」、久美浜と結

んでいる「たんたんトンネル」が開通し、京阪神から但東町を通して出石―城崎へのルートが最短となり、交通量が増え、我々も峠を越えていた頃が懐かしく思い出されます。

そして、今回おそらく但東町としては最後の増築となったのは長年の課題であった第2機械室の増築でした。シルク温泉の設計当時、町の人たちにも自信がなく、利用客を5万人程度と推計していました。もちろんその2倍3倍の人が訪れても対応できるように設備にはある程度の余裕を持たせていましたが、実際には約6倍の人が訪れました。町にとっても、我々にとっても嬉しい悲鳴ではありましたが、豊かな泉質や、宿泊施設の浴室でもあるために休みが少なく、オープンから数年は年中無休のフル稼働で働いていました。

当初の機械室も様々な工夫でやりくりしてきましたが、今回は半地下、中2階で合計約180m²。酷使されて疲れ果てたる過機などを一新し、能力にも十分な余裕を持たせました。

今までは機械と機械の間が狭く、配管がびっしりとはりめぐらされ隙間の無い状態で、機械室での作業能率を下げていましたが、それも今回の増築により解消されました。

大山田温泉さるびの

伊賀の国 大山田温泉 そうぞの森 さるびの(これが正式名称でありましたが、今では「さるびの温泉」と呼ばれています。)がオープンしたのは平成11年4月。初めて訪れたのは平成8年でした。こちらも同じく観光客があまり訪れることのないのどかな村でした。

シルク温泉での教訓やこれまで蓄積したノウハウから、年間20万人という利用者を推計しましたが、最終的には約10万人利用者に対応することとしました。しかし、ここでは密かに20万人以上の利用者に対応できるスペースを持たせ、実際の利用者は30万人近くとなりました。

そして研修棟や物販コーナーの店の拡大、レストランと厨房の増築を経て、当初からの段階





的整備計画に基づいて浴室の増築を行いました。この度の増築では既存の脱衣室から2m程の高さを階段で登り、斜面に向かって2つのシンプルな浴室を設けました。浴室には、大浴槽と源泉風呂、そして男女各11ヶ所ずつのカーンを増設しました。特に目指したのは、外部空間との一体感。サッシの開口を2/3あけることができるようにし、浴室は半外部空間となります。

特に今年の夏はうだるような猛暑が続き、しかも次々と台風が来襲し、その度に祈るような思いでいましたが、現場は必死で乗り越えてくれました。

2つの温泉の今後

今後は、但東町も大山田村も合併して新市となり、新たな発展を遂げられることと思います。但東町と大山田村の最大の共通点であり、多くの人々が訪れる要因は「ひと」です。スタッフや役場の方の頑張り、熱意、発想の豊かさ、決断力と行動力が訪れる人々に伝わるのではないのでしょうか。新市でもそのパワーを発揮して、地域に誇れる温泉施設であり続けることと信じています。

最後に10月23日に日本列島を縦断した台風23号の影響は但東町にも多くの被害をもたらしており、10月末現在も国道426号が通行不能となっています。被災された方々にお見舞い申しあげるとともに、1日も早い復興をお祈りいたします。

シルク温泉でも臨時休業を余儀なくされてい

ましたが、再開しています。おでかけの際は道路状況を御確認下さい。

<但東町シルクロード観光協会>

; <http://www.tantosilk.gr.jp/>

TEL ; 0796-54-0500

<さるびの>

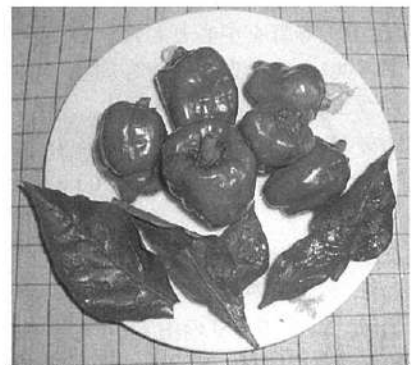
; <http://www.sarubino.com/>

TEL ; 0595-48-0268



ピーマンの葉

シルク温泉に並ぶ新鮮な野菜たちの中で、見慣れない葉っぱを見つけました。ピーマンの葉っぱでした。20cm×30cmの袋にパンパンにつまって100円。地元の人に聞くと「少し固いがことごとと煮て食べると結構うまい」早速購入し、家に帰って、まず茎はさすがに固そうなので、葉っぱを1枚1枚摘み取りました。この作業はモロヘイヤの時と同じ。でもモロヘイヤより固く、柿の葉よりも柔らかいといった感じです。ちょっと濃いめの出汁で言われた通りことごとと煮ました。食べてみると思ったより柔らかく、ピーマン独特のほんのりとした苦味もあって、美味しいものでした。かなり量はあったので、それからしばらく朝も昼も夜もピーマンの葉のおひたしを頂きました。袋の中に葉っぱに埋もれて小さいピーマンがころころ入っているのもご愛嬌。どこかで見かけたら是非お試しください。



大阪の歴史を重ねる上町台地

〔大阪事務所／中塚 一〕

上町台地での暮らし

各地のまちづくりをお手伝いさせていただいていると、時々、自分の暮らしている足元のまちを再探検したくなることがあります。私が暮らしている大阪の上町台地は、ご存知のように様々な時代の出来事（歴史）と人々の情緒（文化）が幾層にも積み重なり、なんとも言えない風情あるまちです。まちなかには、四天王寺さんを筆頭に、寺町界隈の社寺や七坂（JR西日本CMの3都物語において大阪代表で写っているのがその1つの口縄坂です）などなど、沢山の先人たちが守り育ててきた「まちの記憶」が残されています。

新しい「まち活かし」

そのようなまちを舞台として、最近では都市型観光の1つとしての「歴史ウォーキング」等が盛んに行われていますが、ここでは、この秋、「暮らし」をキーワードとした新しいまち活かし活動から、その幾つかをご紹介します。

てらまち極楽ストリート

まずは、下寺町で様々な僧侶から寺町にまつわる様々な「物語」を聴き、新しい上町台地の魅力を発見する「てらまち極楽ストリート」。（詳しくは、<http://www.outenin.com/teragoku/index.htm>）ニュースレターでもこれまで数回紹介させていただいておりますが、現在のアート寺小屋である應典院を中心として寺町という「まち資源」を暮らしの中でどのように活かしていくのかを考える機会が提供されます。

光の寺町カフェ

また、生玉寺町を中心とした秋の夜のライトアップと共に、銀山寺と法善寺別院の境内で音楽とカフェが繰り広げられます。（詳しくは、http://www.tourism.city.osaka.jp/ja/topics/hotnews/night_culture/night-index.html）

区民タウンウォッチング

そして、大阪市の新しい総合計画づくりに向けた地域別計画づくりの中での、天王寺区の地域づくり活動の指針づくりでの区民によるタウ

ンウォッチング。これまでの自治会等の地縁型コミュニティ活動と文化やアート、福祉、教育等のテーマ型コミュニティ活動とが人と人との新しい出会いにより重ね合わさっていく第1歩となりそうです。

大阪、いや日本が誇る寺町を舞台に

400年もの昔から甍を競った日本最古の200余りの寺院による寺町、織田作之助が「森の都」と呼び、司馬遼太郎に「大阪の名所をあげよといわれれば、この崖ではないか。」といわしめた、大阪、いや日本が誇る寺町を舞台で、創造的な「まち活かし」を繰り広げることで、私たちも新しい「まちの記憶」を刻んでいくことができるでしょうか。

三輪泰司会長都市計画学会功績受賞祝賀会へのご参加にお礼申し上げます

〔代表取締役社長／金井 萬造〕

さる、10月24日、弊社三輪会長の都市計画学会功績受賞祝賀会にご参加いただき、所員一同心からお礼申し上げます。弊社とOB会で主催しましたが、来賓やゲストの皆様から暖かい励ましのお言葉とコンサルタントをめぐる状況が大きく変化する時代の中で、いかなる役割を担うべきか、いかなる使命と社会的貢献を発揮すべきか、原点に立ったご示唆をいただきました。所員一同、皆様のお言葉の一つ一つをかみしめて、精進していきたいと念願しています。ご参会いただきました皆様へのおもてなしが未熟でありましたことをお詫び致しますとともに、今後とも、旧来にもましてご指導の程、お願い申し上げます。皆様のますますのご健康とご発展をお祈りし、お礼申し上げます。



三輪会長夫妻への花束贈呈



「成長の限界」

ローマ・クラブ「人類の危機」レポート

○著者 ドネラ・H・メドウズ ほか

○監訳 大来佐武郎

○発行 ダイヤモンド社

元京都大学総長の奥田先生が、この「成長の限界」に出会い、新しい時代の学術研究や都市づくりの方向を、同志を募って議論・提言されたのが、関西文化学術研究都市の始まりと言われています。廃刊されず出版されているのを知って読むと、30年前のものとは思えない今日的テーマで、一気に読み切りました。

ローマ・クラブは、世界各国の科学者、プランナー、教育者、経営者などが参加し、当時、問題となりつつあった資源枯渇化、環境汚染の進行、発展途上国での爆発的人口増加、大規模破壊兵器など、人類の危機からの回避の道を模索することを目的に、1970年に設立された民間組織で、最初の会合をローマで開催されたことから、ローマ・クラブと名づけられています。人類社会の危機の諸要因とその相互作用を把握しうるモデルを作成し、将来の危機の様相と回避方策の検討に取り組むため、MIT（マサチューセッツ工科大学）のシステム・ダイナミクス・グループに研究を依頼し、その成果として、本レポートが刊行されました。

このレポートの真骨頂は、地球上の5つの基礎的指標として、人口、資本、食料、天然資源、

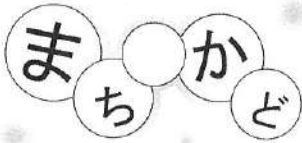
紹介者／大阪事務所 森脇 宏

汚染に着目し、これらの相互関係などをモデル化し、幾つかのシナリオをシミュレーションし、わかりやすく解説しているところにあり、例えば次のような予測が示されています。

まず、このまま成長が等比級数的に推移すると2100年のはるか以前に（厳密な時期の推計は重視していない）資源枯渇が始まり、資源獲得部門への投資増大が他部門への投資を減らし、産業基盤の崩壊、食糧不足や健康サービスの低下等を経て、最後には人口までが減少してしまいます。そこで、資源量が予想より2倍に増える場合や、技術的に4分の1に資源使用効率が改善される場合を想定しても、早晩、増大する汚染が契機となって破局に至ってしまいます。汚染も技術力で防除効果を高めると、次には食糧不足が破局要因となり、食糧生産性を高めると、再び汚染がネックとなると予測されます。

すなわち、幾つかの制約条件のいずれも成長の限界要因になる可能性を持ち、技術的改善だけでは次々に別の限界が登場してくるため、社会の成長そのもののコントロールが必要であることが明らかにされています。そして、具体的な処方箋を幾つか提示してシミュレーションし、その効果が検証されています。

このように、今日的テーマである「持続可能な発展」の議論の原型が語られていると言えるでしょう。また、代替案の設定と評価等の検討プロセスの事例として、大学での入門編の教材にも十分使えると思います。モデルの性格上、国際間の貧富の差が織り込まれていませんが、だからと言って、このレポートの価値が下がるものではありません。なお、このレポートの続編となる「限界を超えて」が、同じくMITのグループの執筆で10年ほど前に出版されており、フロン対策など、この間の経験も反映された興味深い内容となっています。



アップルは「海外高級ブランド」か

〔大阪事務所／坂井 信行〕

8月28日、アップルの直営店であるアップルストア心斎橋がオープンしました。日本では東京の銀座に次いで2店舗目です。原稿執筆時点では93店舗がオープンしており、アメリカ以外では今のところ日本にしかありません。まもなくロンドンのリージェントストリートにもオープンするようで、年内には100店舗に達する模様です。

アップルはMacとMac OSをつくっているコンピュータメーカーですが、最近ではデジタルミュージックプレーヤーのiPodが爆発的なヒットになっています。もともとプロダクトデザインを重視してきたアップルが、98年にトランスルーセント（半透明）デザインのiMacを発表して巷に「スケルトンブーム」を巻き起こしたことは記憶に新しいことと思います。最近ではiPodやiMac G5にもみられるシンプルでミニマルなデザインとなっています。

ブランドイメージを非常に大切にするアップルですが、直営店を日本に出店するにあたっては、その立地にもかなり気を使っているようです。コンピュータといえば一般には東京なら秋葉原、大阪なら日本橋を連想することが多いと

と思いますが、アップルは東京の銀座と大阪の心斎橋を選びました。また日本で3店舗目となるアップルストア名古屋は大津通に出店することが発表されています。どこもいわゆる「海外高級ブランド」のショップなどが立地するエリアです。「このようなエリアに立地しても違和感がないコンピュータメーカーはアップルだけ」というのはアップルファンのひいき目でしょうか。

店舗のファサードはステンレスのプレーンな壁面にアップルのロゴマークが配置され、最近のPower Mac G5などのコンピュータとも関連性のあるスタイリッシュなデザインとなっています。店内は、銀座店では自動運転のエレベーターが印象的でしたが、心斎橋店ではガラスの階段がポイントになっています。また最近の製品販売動向を反映してか、iPodとその関連商品にかなりの売り場が当てられていました。

オープン時には2,500人が並んだそうですが、さて、アップルストアのオープンが心斎橋のブランドイメージの強化と活気の向上にどこまで寄与できるのでしょうか。

※追加情報 梅田と京都にもアップルストアが出店するという噂があります。



御堂筋に面したショップフロント



壁面のアップルマーク



開店前はシートで厳重に隠されていました

アルパック (株)地域計画建築研究所

本 社

URL:<http://www.arpak.co.jp> E-mail:info@arpak.co.jp

京 都 事 務 所 〒600-8007京都市下京区四条通り高倉西入ル立売西町82/TEL(075)221-5132 FAX(075)256-1764

大 阪 事 務 所 〒540-0001大阪市中央区城見1-4-70・住友生命OBPプラザビル15F/TEL(06)6942-5732 FAX(06)6941-7478

名 古 屋 事 務 所 〒460-0003名古屋市中区銅1-19-24・名古屋第一ビル8F/TEL(052)202-1411 FAX(052)220-3760

東 京 事 務 所 〒186-0001東京都国立市北1-1-17・田畑ビル3F/TEL(042)501-2531 FAX(042)501-3024 分室/TEL(03)3226-9130

九 州 事 務 所 (株)よかネット 〒810-0802福岡市博多区中洲中島町3-8・福岡パールビル8F/TEL(092)283-2121 FAX(092)283-2128